



ルーテル学院大学 日本ルーテル神学校 後援会

News

(150)

2023年6月15日
発行
ルーテル学院大学
日本ルーテル神学校
後援会
編集
推進委員会
<http://www.luther.ac.jp/>
〒181-0015
東京都三鷹市大沢 3-10-20
TEL:0422-31-4611
FAX:0422-33-6405

尊い献金に感謝

日本ルーテル神学校 校長 立山 忠浩



皆様の篤いお祈りとご支援をいつも賜っていることを、心からお礼申し上げます。昨年度はことに、目標額を遙かに超える献金をお寄せくださり、感謝に堪えませんでした。まことにありがとうございます。

イエスが人々に語られた有名な言葉があります。「あなたがたは地の塩である。あなたがたは世の光である」(マタイ五・一三、一四)という言葉です。味付けに用いる塩は少量が良いのですが、しかしそれがあるかどうかで料理の味は決まります。光にしても、小さな灯のことをイエスは語られました。煌々と照らす照明塔のような光ではなく、燭台の上に置く小さなろうそくの明かりなのです。夜の闇が深いほど、小さな灯がその存在を大きくし、

そして近くを明るく照らすのです。

この言葉にはもうひとつの重要なメッセージが隠されています。塩にしても灯にしても、その役割を果たす時は姿を消していることです。塩が塩味を發揮したのであれば、その塩は姿を消したのです。ろうそくも自分を燃やすことで光り輝きます。つまり身を削るのです。

他者のために祈るといふことは、自分の持てる時間と思いの一部を献げることです。持ち物を献げるといふことは、自分の財産の一部を削ることです。その一部とはそれぞれ異なることとでしょう。しかし昨年度もルーテル学院のために献げてくださった皆様のお祈りと献金は、それぞれの持てる物を削ってくださったことの徴ではないかと思うのです。だから感謝に堪えない



篤い祈りと
尊い献金に支えられて

2022年度は約3,200万円の献金をいただき、教育施設・備品の拡充整備、図書・教材の購入奨学金、障がいのある学生へのサポート、神学校教育のために用いさせていただきました。



2023年度は63名の大学生と2名の神学生を新たに迎えました。

後援会は皆様のお支えに心から感謝します。

今年度も目標額2,500万円達成をめざして活動を進めてまいります。

「一人ひとりを大切に育てる教育」を通じて、「キリストの心を心として神と世に仕える」人材を育成する。
ルーテル学院大学と日本ルーテル神学校を私たちと一緒に支えましょう。

後援会

ルーテル学院大学 日本ルーテル神学校

ルーテル学院大学・日本ルーテル神学校後援会 事務局 〒181-0015 東京都三鷹市大沢3-10-20 Tel.0422-31-4611

ご支援ありがとうございます

皆様のおかげで目標額を達成しました!

(目標額 2,500万円 → 献金総額 3,200万円)

2022年度は特に教室の無線LANと照明設備を改修し、学生たちがより快適に授業を受けられるようになりました。

6月15日～6月30日
古本募金「チャリボン」
Wキャンペーン開催中
査定額10% + 500円アップ



- ・お申込みはスマホ、パソコンから
- ・右上のQRコードからルーテル学院大学ホームページ下部の「寄付のお願い」からお手続きください。



いのです。本学には「キリストの心を心とする」という建学の精神があります。その心のひとつが「汝らは地の塩、世の光なり」(文語)という言葉だと思えます。学生たちにこの心を伝えるための新年度がすでに始まりましたが、皆様の暖かいお祈りとご支援がきつと大きな励みとなるに違いありません。これからもよろしくお願いいたします。

後援会を応援します!!

思いを託す背中

日本福音ルーテル下関教会
厚狭教会・宇部教会
牧師 中島 共生



昨年、講壇奉仕として立山忠浩校長、河田優チャプレンが私の司牧する教会でご奉仕くださいました。新型コロナウイルス感染拡大であって幾度となく延期され、待ちわ

社会の「光」となる 人材のために

学校法人 聖望学園
理事長 関 純彦



埼玉県飯能市にある日本ルーテル教団傘下の聖望学園中学校高等学校の校長を兼務しています。聖望学園は、サッカー、器械体操、野球、陸上、放送、将棋で全国大会に出場したことがあります。

三十五年前に日本ルーテル神学大学のキリスト教社会福祉コースに入学しました。卒業後は、姉妹校のアメリカオレゴン州のコンコーディア大学ポートランド校に留学しました。その後、コンコーディア大学の東京駐在として働きながら、ルーテル学院大学で科目履修生になり、中学校と高等学校の教員免許を取得しました。そして、聖望学園に転職して、非常勤講師を皮切りに、高校副担任、中学担任などを経て校長になりました。

入学時は、三年間の浪人生活の経験から、コミュニケーションが苦手でした。当時は、バブル経済に浮かれていた世相で、華やかな大学生活をまぶしく感じていました。ルーテル学院大学を選んだ動機の一つは、少人数の大学であったことです。おそらく日本で二番目に小さな大学でした。一番小さな

びたのですが、ついにその時が与えられました。改めてお働きに感謝いたします。

山口県に住んでいると大学、神学校の様子を伺うことは簡単ではありません。その意味で、様々な礼拝、催しオンラインを通じて共有できる現代はありがたいと思う機会が多々あります。そこに生きる隣人の姿を見ることが、具体的に何かできないかと相手の必要を想像し、届けたいという思いも湧いてきます。教会で支援金を積み立

大学は、和歌山県にある真言宗の高野山大学でした。

一九八五年当時の先生方は、清重元学長をはじめ前学長の市川先生が講義や行事で私たち学生と密接に関わってくださいました。先生方の教えで特別に印象に残っているのは社会福祉実習前ゼミでの前田ケイ先生の言葉です。私たち学生に、「実習は一日も休んではいけない。這ってでも行きなさい」という学生が「這っていったら服が破れます」と口答えをすると「這って破れた服は私が代わりを差し上げます」と、ユーモアを交えながらも、甘い私たちに厳しく諭してくださいました。

また、実行委員長として関わった学園祭では、初めて「愛祭(めぐみさい)」と名付けました。異年齢と活動する難しさと同時に、成功の喜びを体験することができました。

小規模な大学だからこそ、充実した学生生活を送ることが出来ました。今では当たり前なことかもしれませんが、教職員の方々が、私たち学生の個性を尊重し、しっかりと見守り育ててくださいました。ルーテル学院大学の経験が、米留学や大学院進学等の未来へ挑戦する自信を与えてくれました。これからも、ルーテル学院大学が発展・存続するためには、多くの方々の支援が欠かせないと思います。私たちが育てられたように、混沌とした社会の光となるような人材のために、ご協力をお願いいたします。

2023年度の一日神学校

9月23日(土・祝)

主題(仮):
「キリストの心を心とする
～関東大震災とディアコニア～」

4年ぶりに三鷹で対面開催。
半日のプログラムを予定しています。

前期活動予定

後援会の推進委員が各地へ出向いて、交流を深めます。

- 6月24日(土) JELC 北部九州地区「献身者を送り出す祈りの集い in ふくおか」(博多教会)
- 7月16日(日) JELC 東静駿遠地区世話人会(静岡教会)
- 7月22日(土) 首都圏世話人会(オンライン)
- 7月30日(日) JELC 尾張岐阜地区世話人会(名古屋めぐみ教会)

て、昨年河田チャプレンに献金を手渡すことができませんでした。

後援会を応援、この記事のタイトルにありますが、応援団の応援とは少し不思議だなと思いました。しかし、直接会いに行くことの難しい私たちが応援、つまり希望を託せる存在がいるというのには、大変ありがたいことです。これからも私たちは後援会を応援します。そしてその先におられる、主によって学びの時を与えられた皆さまを祈りに憶え続けます。